

第70回（平成26年度第5回）番組審議会議事録

1. 開催日時：平成27年1月20日（火）午前10時00分～11時45分

2. 会場：西宮市職員会館 第1中会議室

3. 委員の出席： 委員総数：7名
出席委員数：6名

放送事業者側出席者	代表取締役社長：1名
	統括部長：1名
	統括部主事：1名
	西宮市広報課係長：1名

4. 議題

番組内容についての審議

「特別番組 防災座談会」

平成27年1月17日 土曜日 13:00～14:20 放送分

5. 議事概要

社長より、今年最初の開催であることを述べ、出席者紹介をされる。事務局より委員総数7名中6名の出席で審議会は有効に成立している旨の報告がなされた。

その後議題に沿って各委員から意見をいただき、必要に応じて放送事業者側が説明・回答しながら進められた。

6. 審議内容

(1) 番組の審議

委員長：聴いていただいた番組について質疑応答に入ります。お感じになった事を忌憚なく発言願いたい。

委員：番組内で司会を担当されていた増井さんはどのようなお方か？

事務局：学生時代からラジオの世界のキャリアのある方で弊社の株主でもあり、開局以来プロデューサーとして携わっていただいている方です。

委員：座談会の司会ということもあり事前に入念な打ち合わせをされたとおもいますが？

事務局：平素からシンポジウムの進行等のご経験も豊富な方です。

委員：このような座談会をとの発案はどなたから？

事務局：番組提供の西宮市からの提案でした。

広報課：震災から20年の1月17日に災害関連の特別番組はということから企画しました。当日はレギュラー番組も少ない土曜日ということもあり、このような座談会はどうかとの課長の提案から実際の制作まで1ヶ月弱しかかかっておらず、本当に急仕上げでさせてもらった番組です。人選・内容もほぼ全て広報課長が担当しました。

社長：現在の広報課長、係長は本当によくやってくれている。

委員：市民への働きかけにもなるのでFMで勝手に、というのではなく市からの提案は大事だと思います。

委員長：当日はラジオを聴く機会がなく、今回もダイジェストでの紹介ということもあるが少しわかりにくいところもあった。震災時の体験とか具体的な話があればもっと聴きやすかったのではないかと感じた。

事務局：カットした前半部分に出席された3名の震災当日の様子などは紹介していました。

委員：当日は他にどのような特別番組を放送したのですか？

事務局：午前9時から11時まで阪神間のコミュニティFM4局共同制作の特別番組を2時間の生放送。午後1時からはお聴きいただいた収録済の座談会を含む生放送の特別番組を午後5時まで4時間、その後6時から午後9時までは15日に開催された震災メモリアルコンサートの模様を放送しました。

委員：正直な感想として1時間以上の座談会を全てきっちりと聴いていただくのは難しいと思うが、やることに意義があると思う。

事務局：最終的に市のホームページで公開できるような作り方にはしてあります。

(2) 番組以外の審議

委員長：他にご意見はありませんか？

委員：緊急告知ラジオのことですが、この審議会に出席するようになり初めて知りました。毎月17日の17時に訓練放送をしているとのことですが、今回の様な規模の特別番組ではなく、5分～10分程度の防災啓発番組を訓練放送の一環として毎月放送するのはどうでしょうか。

事務局：訓練放送は強制的にラジオを起動させるので一旦終了が必要ですが、その後啓発番組というのは可能だと思います

委員：震災の体験談のような内容であれば聴いてもらえると思う。

委員長：西宮の訓練放送は聴いたことがないが、先日神戸にいたときに皆の携帯が一斉に鳴ったことがある。西宮では経験がないがどういうものか？

広報課：かなり大掛かりな訓練です。

事務局：17日の17時は西宮市が防災スピーカーを鳴らし、さくら FM は同じ内容ではないが同時刻に訓練放送をしています。携帯がなったのは11月に国が実施したJアラートの訓練だと思います。

委員長：緊急告知ラジオを持っていればその訓練放送が入るのですね？

事務局：通電状態で電波を受けることができる状態であれば入ります。

委員：1月17日にも鳴ったのですか？

事務局：特別番組の後の時間でした。通常の収録番組の時間でしたが17時から2分間の訓練放送を流した後、2分遅れの放送でした。

委員：震災の時は関西にいなかったので、震災時にラジオが大事だということは知っているが、なぜ大事なのかという実感はない。震災時の体験談も耳に入ってきて良いとは思いますが、ラジオを立ち上げた方の思いも含めて何故ラジオが大事なのか、ということを広めていくような内容もよいと思う。

委員：先日2日間にわたって震災時に活躍した市職員のOBを招いての研修があり、当時広報課だった方の話を聞く機会があった。当時は市としても市民に対して情報伝達が難しく、電気がなかったので市政ニュースを発行するにしても編集作業はできなかった。電気が戻っても印刷会社が潰れてしまっていたし、急遽頼んだ会社にも紙がなかった。結局40万人の市民に対して8万枚しか作ることができなかったの、情報伝達手段はとにかく新聞にとりあげてもらおうことしかなかったが、どうしても神戸中心の記事なので頼み込んで書いてもらっていた、というお話だった。現在はさくら FM があることによって市として発信したいことを音声にまとめればすぐに流すことができる。阪神淡路大震災の時に情報伝達で苦労したのをカバーできるメディアだと思っている。それを活用するためには避難所にはラジオがあるので職員がスイッチを入れればいいが、家にいる方にさくら FM を聞いていただけるように市と

しても働きかけをしていかなければならないと思っている。

委員：もし震災がおこったときはどのような内容の放送になるのか決まっているのですか？ 基本的には市の情報を放送するのですか？

事務局：まずはハードとしてのさくら FM を維持することが第一で、とにかくスタッフが集まる。そのうえで市を筆頭に入ってくる情報を迅速確実に放送することになります。人間的にも少ないので我々が救援活動をすることにはならない。まずはスタジオに集まり、とにかく迅速確実に放送を続けることに終始することになると思っています。普段の番組内で安否情報などをすることはできないが、非常時にも通用するような技術が無意識のうちにできるようになるような番組作りを普段から心がけています。

委員：電気がきていないときでも放送はできるのですか？

事務局：電気がなければ作らないといけません。どんな状況でも電気がなければ放送はできません。

委員：どうやって作るのですか？震災の時は電気は比較的早く復旧したのでテレビから情報を得ることはできましたが、放送する側に電気がなければどのようにするのでしょうか？

事務局：最終的には自家発電機を使用することになります。その場合も燃料は補充し続けなければいけません。

委員：移動の放送設備はないのですか？よくテレビ局が中継車から放送しているがラジオにはないのですか？

事務局：設備としてはありますし、県域局では中継車を使用しているところもありますがさくら FM にはそのような機材はありません。中継車は本放送の周波数ではない中継波を使用していますが、さくら FM を含むコミュニティ FM には一局一波の割り当てしかないので中継車の導入は現状では不可能です。さくら FM が臨時災害 FM 局となり出力が増えることは考えられますが、その際も中継車からの放送は考えにくいので、結局池田町の設備に電気がきていなければいけないということになります。

委員：通電されていない時が一番ラジオを聞きますよね？電気が通じればテレビで全ての情報を知ることができる。震災時は小松北町に住んでいたが、甲子園で高速道路が倒れていることはテレビで知った。電気が来ない間は FM で聞かなければ自分の地域の情報も全国ネットでしか知れなかったことを思い出した。電気が通るまでの時間が一番ラジオが必要ではないでしょうか？

事務局：だからこそ池田町の設備の電源を維持確保することを第一に考えています。

広報課：市としても防災センターの計画があり、そこに FM のアンテナを立てて中に FM の放送設備を整備することも考えているがいつ完成するかわからない。

議長はその他の意見がないことを確認し、審議会を閉会する旨を述べ社長は、閉会にあたっての挨拶を行った。なお、次回審議会は平成27年3月20日午前10時、会場と審議番組は後日改めて連絡する旨を確認し、議長は午前11時45分に閉会を宣した。議事の経過を明確にするため、議事録を作成し委員長及び出席委員の記名押印をする。

7. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法

近畿総合通信局への提出が完了次第

「さくらFM」のホームページ <http://sakura-fm.co.jp/> にて掲載。

平成27年1月20日
西宮コミュニティ放送株式会社